

12/29 朝日

コロナ死者増加 最多ベース

インフルは流行期入り

新型コロナウイルスに感染し死亡した人が、過去最多のベースで増えている。

朝日新聞の集計では、27日の死者数は「第7波」で最大だった347人を上回る438人となつた。同日までの1週間平均でも1日あたり313・7人で、12日に200人を超えてから2週間余りで約1・5倍に増えた。

厚生労働省に助言する専門家組織は28日の会合で、「死者数は、これまでの最高値を超えており、引き続

き増加が懸念される」と注意を呼びかけた。

厚労省によると、全国の新規感染者は、直近1週間

と比べ、1・1倍と増加速度は低下。一方、死者数は第7波を上回るベースで増えている。死者增加の原因について、専門家組織は「はつきりしない」とするが、自治体が把握できていない感染者が相当数いたり、医療逼迫の影響を受けたりする可能性が指摘されている。

また厚労省は28日、全国的に季節性インフルエンザの流行期に入ったと発表。新型コロナが発生してからは季節性インフルの流行はなかつたため、3年ぶりの流行となる。新型コロナも拡大しており、今後的同时流行の影響が懸念される。

全国約5千カ所の定額医療機関から報告された最新1週間(12月19～25日)の患者数が、1医療機関あたり「1・24人(速報値)」となり、流行開始の目安となる「1人」を超えた。(市野塊、米田悠一郎)